

# 魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 小川会理 所属: 神奈川県立みどり養護学校 記録日: 2023年 2月17日  
キーワード: 吃音、予期不安

## 【対象児の情報】

- ・学年 高等部(分教室)2年
- ・障害名 知的障害
- ・障害と困難の内容

吃音が出やすい場面において、心配(不安)が先行し、保護者や教員に訴えることがある。担任と声を合わせることで、流暢に発話する経験を積んでいるものの、卒業後を考え、担任から端末への移行を検討したい。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい

吃音症状の結果、不安が増した際に、不安を解消する手立てを検討する。

①吃音症状が出ているとき及びその前後の心拍数などを測定し、発話の状態を記録することで客観的に振り返る。

→心拍と緊張や発話に関する自己評価を行い、心拍が自分自身の状態を知る手がかりとなることを知る。

②不安の解消のための手立てとして、担任と声を合わせる代わりに、端末を使う方法を体験する。

- ・実施期間

2022年6月1日~2月17日

- ・実施者と対象児の関係

小川会理(相談担当者)、長田知大(担任)

## 【活動内容と対象児の変化】

### 1 対象児の事前の状況

- ・太田ステージ(LDT-R) : Stage IV-前期
- ・昨年度より同じクラス編成であり、友人関係は良好である。
- ・学級のルールをきちんと守れていない生徒がいると注意するなどのコミュニケーションをとることができる。
- ・AppleWatchは、未経験である。
- ・吃音の症状があり、不安を口にする場面がある。

#### (吃音の状態)

- ・吃音症状は、ブロック(緊張なし)が中心であるものの、ブロックの時間や緊張の有無に関しては変動がある。また、語頭音の繰り返しや挿入も見受けられる。
- ・吃音の頻度は、友人との自由会話場面ではほとんど見られない。授業中の発表場面では、声色を変えるなど工夫と捉えられる様子はあるが、中核症状が見られることはほとんどない。面談場面では、語頭音の繰り返しが見られることがある。日直の場面や実習中の報告場面では、語頭にブロックが毎回見受けられる。

### 2 活動の具体的内容と事後の変化

#### 活動内容① AppleWatch の操作、扱いに慣れる

- ・本人が使う上で、使いやすい画面表示(図1, 2)を確認し、選択する。
- ・自宅に持って帰り、充電・着用して学校生活を送る。



図1:グリット表示



図2:リスト表示

#### 対象生徒の様子

- ・リスト表示を選択する。
- ・腕に着用する様子も、最初はぎこちなかったが、すぐに慣れ丁寧に扱うことが出来た。家庭でも丁寧に扱い、充電等も行うことができた。

#### 活動内容② AppleWatch を吃音が出やすい場面(日直、実習)で経験する。

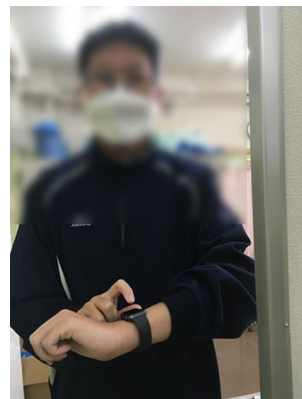
##### (1) 日直場面

- 実施時期について本生徒の意向を確認する。



**対象生徒の様子**

日直の日時を尋ねると、「〇日です。」と答える。名簿順に回ってくるものであり、日直はいつであるという意識はいつもあるようである。実践開始時より、AppleWatch を使用して日直を実施するかどうか、確認をしたが日直の際には、担任の先生が傍に立って斉唱をして欲しいという意向であった。9 月中旬以降、再度確認をしたところ、日直もAppleWatch を使用して行ってみるといった発言があり、日直の際には、AppleWatch のVoiceOver を使用し、行うことができた。



**(2) 校内実習および現場体験実習**

- i) ボイスメモに本人の音声を入力する。
- ii) 校内実習で報告時にボイスメモより声を聞きながら、報告を行う。
- iii) 現場実習で報告時にボイスメモより声を聞きながら、報告を行う。

月	火	水	木	金
		6/1	6/2	6/3
6/6	6/7	6/8	6/9	6/10 i) ボイスメモ入力 
6/13	6/14	6/15	6/16	6/17
ii) ボイスメモの利用 (校内実習)				
				
6/20	6/21	6/22	6/23	6/24
ii) ボイスメモの利用 (校内実習)				
				
6/27	6/28	6/29	6/30	7/1
自宅⇔学校				
		 	 	 
7/4	7/5	7/6	7/7	7/8
iii) ボイスメモの利用 (現場実習)				
 	 	 	 	 

**対象生徒の様子**

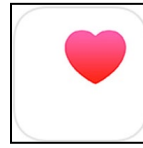
- i) 本人の声でボイスメモに録音したが、タイムラグが生じてしまう。本人とボイスメモに入れる内容を確認し、教員の音声を録音した。
- ii) 報告時に、ボイスメモの録音した音声を聞いて行うということの経験ができた。
- iii) 自宅から現場実習先に着用して通うことができた。実習先では、報告の際に吃音の症状がでることがほとんどなかったため、ボイスオーバーを使用しないという選択をすることができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
行事等	始業式		校内実習	現場実習	夏季休業	宿泊学習	校内実習	学習発表会	現場実習		
ボイスメモ使用			→					→	→		→
			校内実習・現場実習				日直	日直・報告会など	日直・報告会など		日直など

活動内容③自分自身の吃音の状態を確認する。

(1) 自分自身の心拍をスクリーンショットする。

スクリーンショットを有効にする設定を行い、本人と確認を行った。



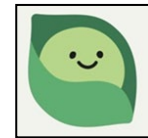
対象生徒の様子

開始当初は AppleWatch と iPhone に距離があったため、スクリーンショットが保存されないことなどがあったが、方法を再度検討し、行うことができた。使用し始めの頃は、心拍が気になる様子もあったが、日々装用している中で、気にしすぎることなくなった。



(2) 気持ちを含めて日々を振り返る。

アプリ「毎日まめ」を使用し、気持ちを選択し、その日の振り返りを家庭で日記に記載した。



対象生徒の様子

表情は、笑顔を選択することが多いものの、日々の振り返りを帰宅後記載することができた。



今日は、みんなと教室で、LHRの時間に、生徒会選挙の練習をしました。ちゃんとできました。

今日は、みんなと国語の時間に教室でふわふわ言葉を書きました。良く考えました。

(3) 吃音の状態を場面および数カ月単位で振り返る。

・日直等を行った際に、吃音の状態について教員と振り返りを行った。

・数カ月単位での吃音の波の状態を、教員と共に振り返りを行った。

**対象生徒の様子**

・日直場面等に関しては、発話前後の心拍数及び気持ちと吃音の状態の振り返りを担任と確認しながら行った。気持ちの部分は、アプリ「毎日まめ」を併用し選択肢として活用した。

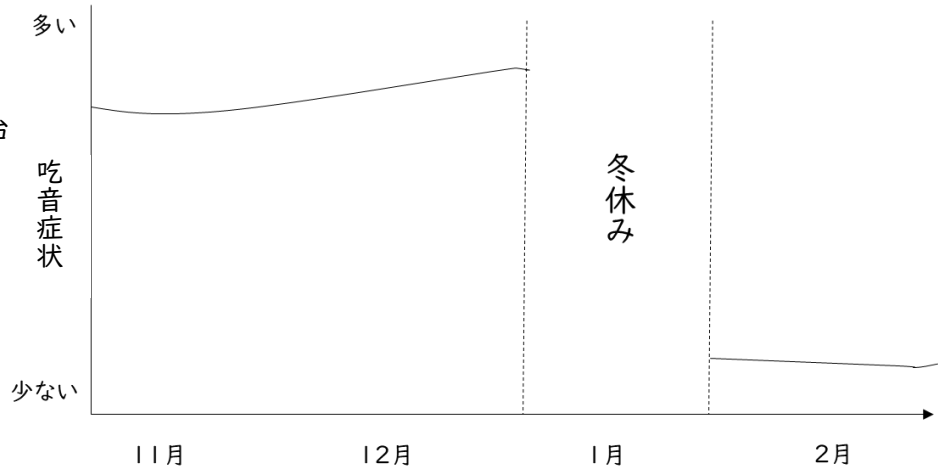
心拍数	
気持ち	 
つかえる様子について	

気持ちでは、「ふあんな」を選択している。合わせて、つかえる様子に関しては、場面を記載することができた。

・数カ月単位で吃音の量を確認し、心拍数や行事との関連の振り返りを行った。

後期実習や実習報告会等の際には、吃音症状が多く、変化が少ない時期には吃音の症状が少ない。また、心拍数の確認も並行して行った。

行事や日直等の際には、心拍数も100を超えることが多く、日々の活動の際には80~90台のことが多い。



↑ 本生徒が数カ月を振り返って、吃音の状態を記載したもの

【報告者の気づきとエビデンス】

①主観的気づき

- ・本人より、(AppleWatch を)使った方がスムーズに言えます。楽な気持ちになります。といった発言があり、保護者からも AppleWatch がお守りのようになっていて、日常生活でもスムーズに発話できているように思うとのことであった。
- ・女性教員の方が、スムーズに話すことができるといったことにも気づくことができた。
- ・不安に関する表現は、「緊張する」と発言することはあったが、不安や心配などといった語彙を選択することが難しかった。

②エビデンス(具体的数値など)

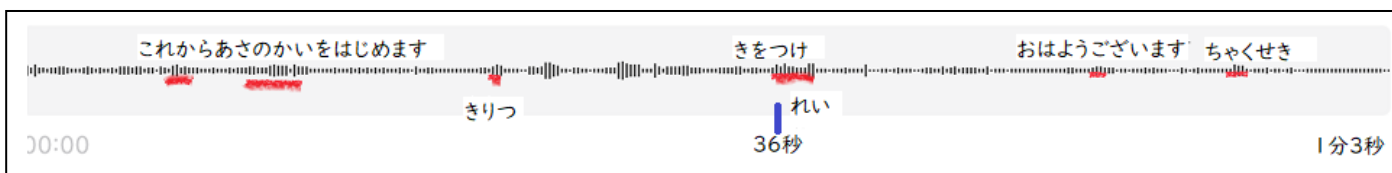
- ・ボイスメモ使用時の発話状況と未使用時の発話状況

ボイスメモで音声を聞く時間を含んでも、発話の全長の時間が短く、流暢に話すことができています。

	発話(これからあさのかいをはじめます。きりつ。きをつけ、れい。おはようございます。ちゃくせき)の時間
ボイスメモなし	1分3秒
ボイスメモあり	36秒(ボイスメモで音声を聞く時間を含む)

〈タイムラインの様子〉

ボイスメモなし



ボイスメモあり



③その他エピソード(画像などを含めて)

1)身だしなみチェックを実施

身だしなみチェックリストで身だしなみがどれくらいできているかの確認する。



